

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700047		
法人名	エポックワン有限会社		
事業所名	グループホームこもれび下松		
所在地	山口県下松市古川町1丁目5-5		
自己評価作成日	平成24年2月28日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食下は苑内で調理したものを提供し、調理に複数の利用者が関わっておられます。準備、盛り付け、片付け、掃除など1人1人の有する力に力を向け役割を持って生活できよう努めております。 ・入浴は本人の希望により毎日でも入れるようにしております。 ・天気の良い日は散歩、ドメイブなち愛に出て季節を感じながら過ごせるよう配慮しております]

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関わりの中での利用者の何げない言葉や言葉にしづらい思いを言動や表情、しぐさから汲み取り、一人一人に合った「思い」や「暮らし方」がかなえられるよう取り組んでおられます。利用者の介護度が進む中でも医療との連携を図り、一人ひとりの事故防止策を立てて介護計画に反映し、その人らしい暮らしができるよう支援しておられます。食事は三食とも事業所内で調理されています。利用者は調理から盛り付け、配膳、食卓の準備、後片付けなど一人ひとりのできることを活かして職員とともに食事づくりを楽しんでおられます。利用者と職員が同じテーブルを囲み、同じものを食べながら会話を弾ませて、和やかに食事を楽しんでおられます。利用者に季節の行事の主人公になってもらい、行事に合わせた衣装を着て、写真を撮り、壁面や新聞に掲載するなど、利用者が生き生きと喜んで暮らしてもらえるよう工夫しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員共に理念を作り、実践中である。地域密着が表立って出ていないが、個々のニーズなどを実践していくなかで繋がっていると思われる	「あなたがあなたらしくいられる愛ある介護をめざします」という事業所独自の理念を職員全員で話し合いつくっている。「自分が望む介護とは」をテーマに話し合いを重ねて理念をつくり、その全過程をそのまま階段の踊り場に掲示し共有している。利用者一人ひとりの個別性を重視して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図っている	自治会に加入し、総会に職員が出席したり、自治会の清掃作業に職員と利用者が参加している。毎月1回事業所便りを発行し、店や自治会長、民生委員に配っている。神社の祭、小、中学校の運動会の見学、ボランティア（歌、舞踊等）や中学生の介護実習の受け入れなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の介護実習の受け入れをしている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善すべきところは少しであるが改善している。意義は理解できていない	アウトカム項目は全職員が記入したものをまとめ、自己評価は数名の職員で話し合って作成している。前回の評価結果について話し合い、運営推進会議を2ヶ月に1回開催したり、新たな理念を作り出すなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催している。出席者の意見を聞くようにしているが、サービス向上には至っていない	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、地域代表、家族、利用者の参加で開催している。利用者の状況、活動報告、研修報告、事故防止委員会報告など行い、市や家族の意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者状況、待機者状況を毎月報告。わからない事は積極的に聞くようにしている	市地域包括支援センターは、運営推進会議の他、電話で事例の相談や情報交換を行い、市担当課とは、電話や出向くなどして事業所状況、サービス提供状況を報告するとともに、疑問や不明点等について相談し、助言を得るなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの鍵は施錠していない。利用者は概ね自由に動けるようにしているが、完全ではない。	職員は「身体拘束をしないケア」について勉強会を実施し、身体拘束の内容や弊害について理解している。日中、玄関は施錠せず、自由な行動を大切にされたケアで対応している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について参加した職員がミーティング時報告するなど学ぶ機会はあるが、浸透するには至っていない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3月権利擁護について研修する機会を設けている現在は学ぶ機会、話し合いは出来ない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談を設け、苦情、要望が等があった場合は対処し、サービスに結びつけている	相談、苦情の受付体制や担当者を明示し、契約時に説明している。家族から面会時や電話、家族会、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。出された意見は職員間で共有しケアに反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回行っているが、特別に提案を聞く機会は設けていない。叶えられる要望のみ反映している	毎月のミーティング(18時～21時)で意見や要望を聞いている。利用者の使いやすい台所器具の工夫や安全面から居室のベッドを畳に替えたり、褥瘡予防のためのエアマット購入等の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等への反映は変わる状況にあるが、まだ整備されていない		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらヘルパーの資格がとれる制度を導入している。色々な研修の情報は開示している。	外部研修は情報を伝え、勤務の一環として参加の機会を提供し、受講者は復命伝達をしている。内部研修はミーティング時に行い、新人職員には、日々の実践の中で管理者や先輩職員が指導者となり、学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会はあったが、それを生かした取り組みまでは出来ていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望はくみ取り、孤独感をあじわうことのないよう対職員、対利用者で安心できる関係を築くようにしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、契約時など要望を聞きプランに反映するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内だけでなく他のサービスを利用者によっては利用している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「不安」「こだわり」「楽しみ」を理解し、共感しようとしているが、全ての入居者、職員が出来るわけではない		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えていきたい、築きたいと思っているが、長く入所している利用者の家族ほど家庭の事情により足が遠のいている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時既に関係が遠のいている場合が多いが、関係を把握している時は少しでも途切れないように努めている	利用者の知人の来訪の受け入れや、家族との電話や手紙の支援、知人のいる商店への立ち寄りの支援など、本人の馴染みの人や場所を聞き取り、関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを未然に防ぐよう工夫をし、孤立する事がないよう配慮している		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が続けられる人はわずかである。殆どは関わりが途切れている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを把握し、取り入れようとしているが、利用者によってはくみ取る事が困難であり、実践も出来ていない。	日々の関わりの中で何気なくでた利用者の言葉を記録して、思いの把握に努めている。言葉に出せない人へは、表情やしぐさから汲み取り、本人の気持ちを推察して、職員間で共有して支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は得ようとしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する力を生かすこと、わかる事を発見することが出来ていない		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当が主にモニタリングをし、それを介護計画に加えているが、チーム全体での介護計画作成にはなっていない	月1回カンファレンスを行い、利用者の意向や家族の要望、主治医の意見を参考にして、担当職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月毎や状況の変化に応じて見直しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の記録をしている。(本人の発言、気づき、食事量、水分量)		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族で対応できない通院には出来る限り対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店などを利用することはあるが、利用者本人と関係がある地域資源を利用するには至っていない		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望と家族が可能な通院の状況を話ししながら今までのかかりつけ医にするか、ホームの主治医に切り替えるかを決めている。月1回ホームの主治医による往診がある	利用者のほとんどが協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の往診の支援や、ほかの医療機関や専門病院の受診を家族の協力を得て、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談をし、決定している事が多い。緊急時も連絡がとれるようにしている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室がある病院では入院中、退院時に情報が得られるようにしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は医師、家族、ホーム職員で話し合いをするようにしている。重度化した場合の指針はある	重度化や終末期に向けた指針があり、入居時、本人と家族に説明し、了解を得ている。実際に重度化した場合は、家族、職員、主治医と話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。医療機関の移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止委員会を設けてはいるが、事故は減っていない。消防士による救急法の講習を受け、実践力をつけようとしている	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故防止委員会で事故対策を検討し、全体ミーティングで一人ひとりの対応策を話し合っ事故防止に取り組んでいる。日々の注意に対して連絡表で伝達している。全ての職員を対象にした応急手当、初期対応の訓練等が定期的に行っているとは言えない。	・応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しているが、職員の交代や勤務の状況により全員が身につけるまでには至っていない	事業所では消防署の協力を得て年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者とともに実施している。自治会長を通して、地域の協力が得られるよう働きかけている。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目立たない、さりげない言葉かけや対応にかけているところがあるが、人格を尊重するよう努力している。	利用者を人生の先輩として尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に気をつけて、一人ひとりの思いにそって接している。日々のケアの中での気づきはミーティングで話し合い改善に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	シグナルをキャッチしようと努めているが、全職員が全利用者に出来ているとはいえない。努力はしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定は促すが、ホームのスケジュールに合わせた生活をしている利用者もいる		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ自立している利用者には出来ているが、選択が難しい利用者ほど出来ていない		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の一部や盛り付け、片付けを利用者が関わることもある。	三食とも事業所で作り、利用者は調理から盛り付け、配膳、食卓の準備、後片付け等一人ひとりのできることを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルで同じものを食べながら、食事が楽しめるように支援している。誕生日や季節行事では食事内容を工夫したり、外食するなど、楽しみな食事となるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難な利用者には食事の形態を変えている。栄養バランスはとれているとが、嗜好を取り入れるには至っていない		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、食事後の口腔ケアは行っているが、自分で行う人ほど口腔ケアが確実に出来ていない		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握するようにしている	排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないように言葉かけに配慮して、トイレでの排泄ができるように、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールがうまくいかないときがあるが、下剤以外で出来る予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めておらず希望者は毎日入れる。時間帯は決まっている	入浴は14時からで、希望すれば毎日入浴できる。安全に配慮するとともに、本人の希望を聞きながら、のんびりと入浴できるように支援している。入浴をしたくない人には職員を交代したり、声かけの工夫やタイミングをみるなど、無理強いせず、時には入浴剤を入れて温泉気分や季節感を味わってもらうなど、個々に応じて入浴が楽しむことができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息がとりたい利用者にはとれるようにしている。不眠の利用者には眠れない原因をさぐり眠れるように支援するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明を各利用者ケースファイルに入れている。症状が変化したときは、医師に相談している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割や可能性を探り、活躍できる場面を作ろうと努力している。	テレビを見たり、歌を歌ったり、カルタや壁面を飾る貼り絵をし、ボランティアによるお話や歌、舞踊、ギター演奏、お茶会、季節の行事などを楽しんでいる。食事づくり、後片付け、誕生ケーキの飾りつけ、手すりの雑巾がけ、モップでの床掃除、洗濯物たたみ等、利用者のできることを活かした活躍できる場面を多く作り、楽しみや喜び、張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の人々の協力は得られていない。家族には面会や電話などで本人の希望を伝えている。外出は毎日可能であるが、その日の希望者が全員行きたいところにいけるわけではない	周辺の散歩や近隣のパン屋での喫茶を楽しむ、外出を通して馴染みの場所や人に会えるよう支援している。小中学校の運動会、神社への初詣、海の家、地域の祭り、クリスマスツリーの見学、芋ほり等に皆で出かけるなど、利用者一人ひとりの希望を聞きながら、叶えられるように家族の協力を得て外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安という利用者のみ所持している。自分のお金を使える利用者はいるが、ほぼ全員がホームで立て替え、買い物をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分は常に電話をかけたいという利用者がいるが、相手が拒否というパターンが多い。手紙のやりとりを希望する利用者には支援している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を時々職員が持ってきて活かしている。整理整頓ができていない場合が多い	共用空間は明るく、居室に続く廊下は広く、ホールの一角にある台所や畳コーナーは家庭的な落ち着いた空間となっている。台所からの音やにおいては五感を刺激し、生活感を感じさせる空間となっている。畳のコーナーに飾ってあるおひな様、壁面に利用者の作品である季節のちぎりや利用者自身がおひな様になっている写真などを飾り、季節感のある室内となっている。トイレ、洗面所、浴室は清潔、安全に整頓しており、換気に配慮して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で一人になれる場所はないが、ソファや畳に座って、気の合うもの同士過ごす事はできる		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝えているが、家具などはほぼ新しいものを購入される。	ベッドや床頭台、机やいす、ポータブルトイレ、テレビ、洋服かけ、家族写真、姫鏡台、ぬいぐるみ、衣類等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、安全に居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルは高さが変えられるものを購入している。手すりも各場所に設置してある		